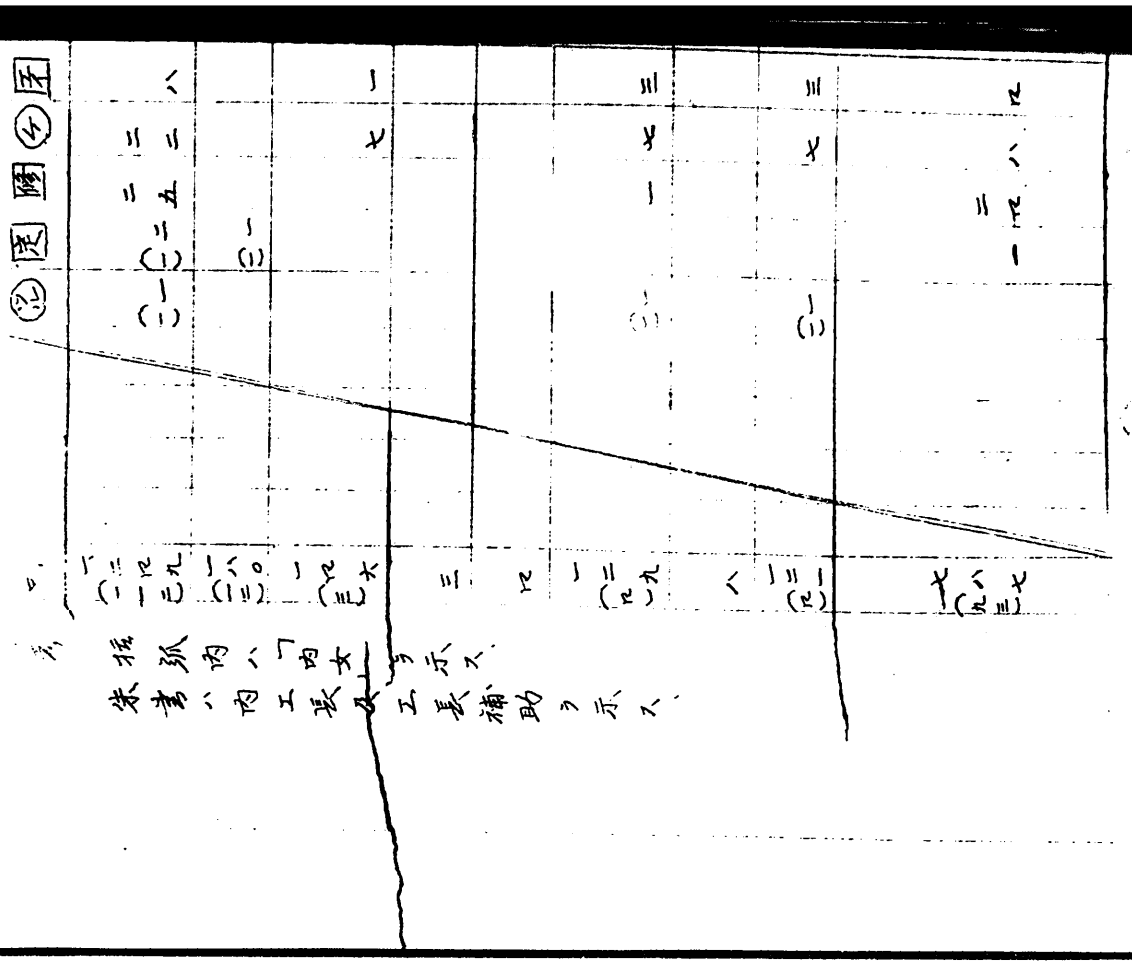

別紙二、

爭議日報　第二號

無ニスト・ライキは　持久戰と化す！

俺達が生活を賭して斗ひ取ったものだけれども、要求は吞まれ、會社側は吞まれた分だけ、要求を撤回せよと云ふ無茶な條件を持ち出して來た。我々は、會社側の要求を拒否して俺達の要求をケトバして了ったのである。そこで對立ストライキを續行して行く事に一人殘らず決定した。

一和爭議のストライキが始まって茂義されるやいなや、會社の訪問あり、應援の申込み等ありて平和な意氣込みを物語る。

見よ！此のロックアウトに依る久ストライキを初めとして兄弟團結した四貝工場もあり、調貝のトに勞働者同志團結を完成するの他、芝地區の學校に依る階級的立場から日情署名に入ることとてゐるそ、オレ達の勝利は全く此プロレタリヤの勝利なのだ。

最後の一人まで戰ひ抜け！

ツルミ工場
サボに

ゆる爭議の勝
譯を以てサボに

たそ、

爭を京濱勞働

兄弟の平等を

を切らんとする

渕町富士電

爭に依る爭

次と應援を

芝地の兄弟

俺達の要求が

は一歩たりとも

方々婦人の

の如き團結